#今月の特集関連本

終末期の苦痛がなくならない時、何が選択できるのか?

苦痛緩和のための鎮静（セデーション）

森田達也＝著
本体 2,800 円＋税／B5 判・192 頁／医学書院／2017

終末期の苦痛に対応する手段には何があるのか？　眠ることでしか苦痛を緩和できないとしたら、私たちは何を選択できるのか？　手段としての鎮静の是非を考える時、その問いは「よい最期をどのように考えるのか」という議論に帰着する。鎮静の研究論文を世界に発信してきた著者が、鎮静を多方面からとらえ、臨床での実感を交えながら解説する、鎮静を深く知るための書。多職種で考える 1 冊としてお勧めしたい。

死亡直前と看取りのエビデンス

森田達也、白土明美＝著
本体 3,000 円＋税／B5 判・204 頁／医学書院／2015

患者が亡くなる直前の医学的問題や看取りに関する解説をした本書は、❶死亡までの過程と病態、❷死亡直前に生じる苦痛の緩和、❸望ましい看取り方のそれぞれについて、医療職者が知っておくべき最新のエビデンスをまとめている。著者の経験に基づくナラティブな解説も豊富に記載されており、医師や看護師のみならず、人の臨終に関わる多くの読者の助けとなる書である。

エビデンスからわかる

患者と家族に届く緩和ケア

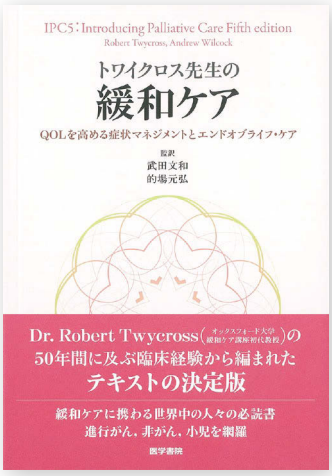
森田達也、白土明美＝著
本体 2,300 円＋税／A5 判・200 頁／医学書院／2016

オピオイドを拒否する患者さんには、その理由を尋ねてみる。終末期の患者さんの、つじつまの合わない言葉に付き合う。現実とかけ離れた希望も、否定せず大切にする。そんな 1 つひとつのケアが、患者さんと家族の大きな助けになる。日常のケアを裏づけるエビデンスから「今、できる緩和ケア」を考える本。コミュニケーションあってのエビデンスなのだと納得！

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2018

2026/09/16 01:30:42

#今月の特集関連本

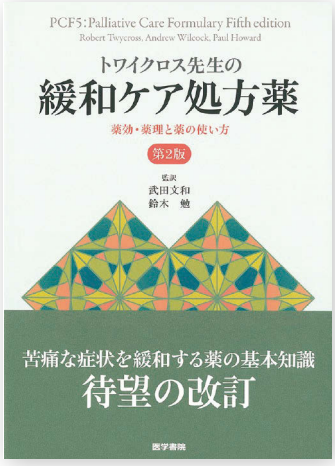


トワイクロス先生の緩和ケア

QOL を高める症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア

Robert Twycross、Andrew Wilcock ＝編
武田文和、的場元弘＝監訳
本体 3,400 円＋税／A5 判・440 頁／医学書院／2018

緩和ケアの標準テキストとして世界中で読み継がれてきた名著『Introducing Palliative Care』の最新第 5 版の完訳。緩和ケアの泰斗 Dr. Robert Twycross と Dr. Andrew Wilcock 編集。進行がんのみならず、非がん疾患、小児ケアも網羅し、緩和ケアのすべてを見通せる 1 冊。



トワイクロス先生の緩和ケア処方薬

薬効・薬理と薬の使い方
第 2 版

Robert Twycross、Andrew Wilcock、Paul Howard ＝編
武田文和、鈴木　勉＝監訳
本体 5,500 円＋税／A5 判・928 頁／医学書院／2017

原書は『Palliative Care Formulary 5th edition』(2014)。Dr. Robert Twycross (オックスフォード大学緩和ケア学講座初代教授)の編纂による緩和ケア界の必携書。最新のエビデンスに基づいた改訂版。がんを中心に、他の致死的な疾患を含む緩和ケア薬を網羅した、薬剤情報集と基本知識（オピオイド効力換算比、終末期の薬の投与法、薬物間相互作用など）の 2 部構成。新章「かゆみの治療薬」なども追加された。

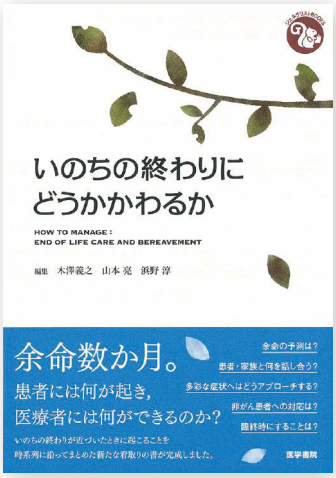
トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント（第 2 版）

Robert Twycross、Andrew Wilcock、Claire Stark Toller ＝著
武田文和＝監訳
本体 3,800 円＋税／A5 判・528 頁／医学書院／2010

初版刊行後、Dr. Robert Twycross はその原著をウェブで公開。全世界の専門家からコメントが寄せられ、その叡智は、本書の刷新と充実に注ぎ込まれた。末期がんや進行がんに限らず、がんによる痛みや諸症状、さらには心の苦しみにまで手を差し伸べた本書は、すべてのがん患者にとっての「福音の書」として、さらなる発展を遂げた。末期がん・進行がん患者の諸症状管理のためのバイブル。

2026/09/16 01:30:42

#今月の特集関連本

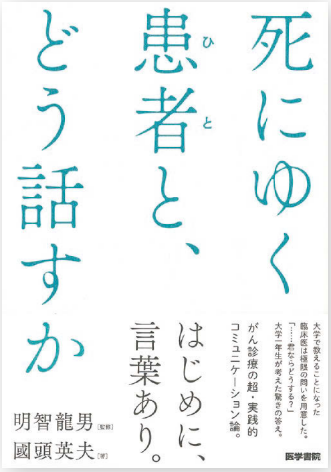


≪ジェネラリスト BOOKS≫

いのちの終わりにどうかかわるか

木澤義之、山本　亮、浜野　淳＝編
本体 4,000 円＋税／A5 判・304 頁／医学書院／2017

総合診療医や内科医、およびそれを取り巻くメディカルスタッフに求められるエンドオブライフ患者への関わり方の知識とスキルをまとめた 1 冊。患者の同定から予後予測、患者•家族との話し合い、起こりうる症状、臨終時の対応まで、余命数カ月の患者に起こること・求められる対応を網羅。きたる「多死社会」に役立てられる、今までにない実践的ガイド。p.1304 に前野哲博先生による書評あり。

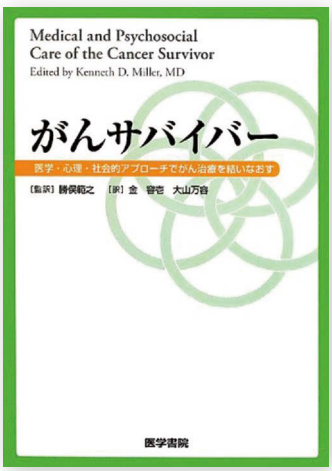


死にゆく患者と、どう話すか

明智龍男＝監修
國頭英夫＝著
本体 2,100 円＋税／A5 判・306 頁／医学書院／2016

臨床医が看護学生と考える「死にゆく患者といかに語るか」についての超・実践的コミュニケーション論。がん告知と積極的治療の中止（Breaking Bad News）の方法、DNR（Do Not Resuscitate；心肺蘇生を行わないでください）の限界、インフォームドコンセントのあるべき姿とは。臨床の泥沼で最善のものを見つけるために知っておきたい信用と信頼のコミュニケーション•スキルを学ぶ全 7 講。

SHARE のスキル（p.1214）や意思決定支援（p.1226・1230・1255）の助けになること間違いなし。



がんサバイバー

医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす

Kenneth D. Miller＝編
勝俣範之＝監訳　**金　容壱、大山万容**＝訳
本体 4,000 円＋税／A5 判・464 頁／医学書院／2012

総論（p.1192）ご執筆の勝俣範之先生の監訳本。高橋都先生の「外来で『がんサバイバー』を診るポイントは？」（p.1265）と併せて読みたい。

がんと診断された日を患者もその家族も忘れることはない――。「がんサバイバー」とはがんを克服した人だけを指すのではない。がんと診断された時から人はサバイバーとなり、一生サバイバーであり続ける。診断•治療時、再発監視時、完治後の各々に異なるニーズとケアを理解し、可能なかぎり高い質で生きていけるようサバイバーを支援するにはどうすればよいか。医療者が知っておくべき医療・心理・社会的支援の知識を解説。

2026/09/16 01:30:42

#今月の特集関連本

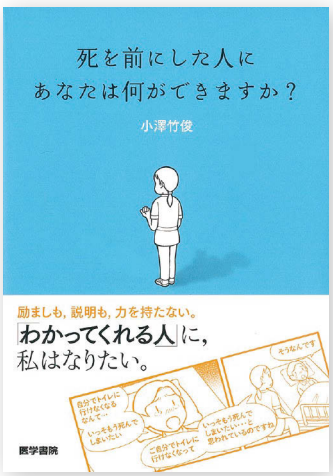
地域医療と暮らしのゆくえ

超高齢社会をともに生きる

高山義浩＝著
本体 1,800 円＋税／A5 判・180 頁／医学書院／2016

多死時代のプライマリ・ケアの形とは？　その答えは暮らしのなかにある――。本特集にてホスピタリストの立場から「地域連携」を説く高山義浩先生（p.1226）が、老い病む人を支えたいすべての医療者に捧げる提言の書。

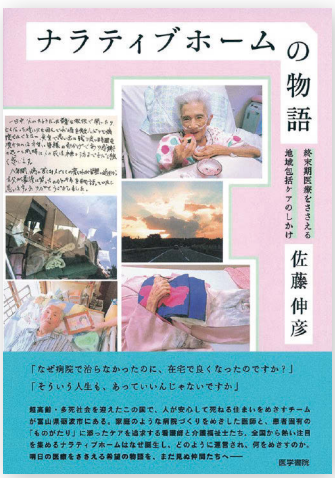
世界の貧困・紛争をテーマにさすらった若者が、医師となって、佐久（長野県）で若月俊一の魂に出会った。沖縄にあっても地域医療の前線にあり、時に霞が関のミッションを帯びて奔走し、どの現場でも汗をかき続けるその目に「地域包括ケアシステム」の実像はどう映り、この国の形をどう模索しているのか？



死を前にした人に あなたは何ができますか？

小澤竹俊＝著
本体 2,000 円＋税／A5 判・168 頁／2017

看取りの現場では、答えることのできない問いを突きつけられる。「下の世話になるくらいなら、いっそ死にたい」「どうしてこんな目にあうの？」。そこでは説明も励ましも通用しない。私たちにできるのは、相手の話を聴き、支えを見つけること。言葉を反復し、次の言葉を待つこと。それは誠実に看取りと向き合ってきた在宅医がたどりついた、穏やかに看取るための方法。死を前にした人に、私たち医療者にはできることがある！



ナラティブホームの物語

終末期医療をささえる地域包括ケアのしかけ

佐藤伸彦＝著
本体 1,800 円＋税／272 頁／医学書院／2015

超高齢・多死社会を迎えたこの国で、人が安心して死ねる住まいをめざしたチームが富山県砺波市にある。家庭のような病院をめざした医師と、患者固有の物語に添ったケアを追求する看護師と介護福祉士たち。2010 年開設以来、全国から熱い注目を集めるナラティブホームはどのように誕生し、日々運営されているのか。その診療、看取り、エンゼルメイク、葬儀、アルバムづくりまで、実践の詳細を 1 冊にまとめた。「ナラティブ」の重要性は、本特集の企画者・東光久先生らも強調するところ（p.1189・1194）。

2026/09/16 01:30:42